

平成28年度 村上・岩船外国語活動部 活動報告

部長 名古屋 康秀

1 研究主題

コミュニケーションへの積極性を高める授業 ～Hi, Friends!の自校化を探る～

2 研究の概要

平成32年度新学習指導要領では、5・6学年において外国語活動が教科になり、3・4学年でも外国語活動が行われる。改正に向けて、コミュニケーションへの積極性を高める指導が求められている。そのためには、英語を「知りたい」「習得しよう」という知的好奇心を喚起し、獲得した英語表現を「伝えたい」「使おう」とする手立てが必要である。教師からの一方的な課題ではなく、「ALTの先生が英語で何を言っているかを知りたい」や「これを英語で何と言うのか知りたい」「自分の思いや考えを伝えたい」という児童自身の興味・関心に根ざした活動であれば、児童は積極的にコミュニケーションをすると考えられる。

『Hi, Friends!』は、児童のコミュニケーション活動やタスク的な活動を重要視した内容となっている。『Hi, Friends!』を基本としながら、児童の実態や学校の特色や地域性を活かして教材化していくことで、コミュニケーションへの積極性を高める活動を模索していくことが、我々がやるべきことであると考えられる。

昨年度の成果と課題を受け、本年度も児童のコミュニケーションへの積極性を一層高めるための指導方法について研修を深めた。本年度は、ハブスクール事業の授業公開に参加し、中高の英語教諭と意見交換をしたり、授業実践情報交換会で互いのアクティビティを紹介したりすることを通して、研究テーマにせまることとした。

3 研究の実際

- 4月28日 代表部員会・第1回部会 事業計画立案
- 7月20日 第2回部会 ハブスクール協議会との合同開催
 - ・授業参観（村上市立村上南小学校 星 邦央 先生）
 - ・授業に関する協議会
- 8月19日 第3回部会 授業実践情報交換会
 - ・部員による模擬授業発表
 - ・情報交流

4 成果と課題（○成果 ●課題）

- 第2回部会の授業公開では、「新しいALTに、村上のniceなところを紹介しよう」というタスクを設定した。パンフレットを見ながら「何を紹介しよう?」「イヨボヤ会館を英語で何と言うのだろうか?」という疑問が生まれ、児童間の積極的なコミュニケーションや、ALTにどうにかして伝えたいという意欲的な姿を見ることができた。また、児童は授業を通して、非言語によるコミュニケーションの有効性も体験的に理解することができた。
- 第3回部会の情報交換会では、すべての児童が積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿を目指し、効果のあった実践を模擬授業形式で行った。「偶然を生む活動で、男女関係なく話し合うゲーム」や「勝敗が最後まで分からないゲーム」を設定することで、苦手意識をもつ児童の意欲が高まることが共通理解できた。また、あえて全て教えないことで、推測する力が培われ、「自力で英語を理解した」という達成感に繋がったという実践も紹介された。
- 普段の授業の反省から、英語の情報が多すぎると児童が混乱してしまうので、一度に扱う英単語を精選して提示したほうがよいという課題が出た。
- 外国語活動については、ALTや外国語指導助手に頼って、自分で教材化しようという意識をもっている教師はまだ少ない。また、高学年の先生だけのものという意識もある。目標を理解しながら、全ての教師の授業力を向上させていく必要がある。